

6. 本市の教育と教育環境の整備について。
- (4) 全国学力・学習状況調査について。
- ① 結果をどのように捉え、どのような対策を行い、どのような効果が出ているのか。
 - ② 「本市の課題改善に向けた取り組みについて」が公表されているが、漠然としすぎているのではないか。
※もっと詳細な分析と課題改善に向けた取り組みについて、公表してはどうか。
- (5) チャレンジテストについて。
- ① 結果をどのように捉え、どのような対策を行い、どのような効果が出ているのか。
 - ② チャレンジテストも、「本市の課題改善に向けた取り組みについて」のような公表をしてはどうか。
 - ③ 同一生徒の経年比較ができる利点を、どのように活用しているのか。
- (6) 「箕面子どもステップアップ調査」を参考に、子どもたち一人ひとりの学力や体力、生活の状況を経年比較で把握・分析できる制度を導入してはどうか。

【答弁】

6. 本市の教育と教育環境の整備について。の(4)(5)(6)については、子どもたちの学力向上という意味で、関連連しますので、一括してお答えいたします。

はじめに、本年度の全国学力・学習状況調査の結果ですが、小学校国語A・B、算数A・Bとも概ね大阪府平均と同等であります。全国平均を下回っており課題と捉えております。一方、中学校では国語Aが全国平均と同等で、国語B、数学A・Bの3科目は全国平均を上回っております。

また、本市では、同一集団の小6と中3の経年比較をしており、大阪府では全国平均に対して、小6から中3にかけて低下傾向の見られる科目がある中で、本市の中学生は、小6時点では全国平均を下回っているものの、中3ではすべての科目で上昇し、全国平均と同等以上となり、学力の向上が見られます。

次に、チャレンジテストの結果につきましては、学年ごとに課題は異なるものの、中学校3年生では、平成28年度に比べて、平成29年度では5教科の平均が改善し、全ての教科で大阪府平均を上回っております。

このような成果が見られますのは、以前より全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの結果を分析・活用し、市として取り組みを続けてきた効果であると考えております。具体には、これまでも各科目の調査結果や問題別の分析を行い、校長会・教頭会、また、各校の学力向上担当者を集めた会議において、具体的な例をあげて改善方策を提示してまいりました。更には、教育指導室が実施する各

校の学力向上に係るヒアリングにおいて、それぞれの学校の課題改善に向けた取り組みに対する指導助言を行ってまいりました。

加えて、過去の調査との経年比較を行う中で、本市の子どもたちには、読解力や、複数の条件を踏まえて文章に表す力など、言語能力に課題があることが明らかになりました。そこで、特に昨年度は、こうした課題の改善に向けて、国語科の研究授業を実施し、大阪府教育庁が作成した国語に関する学習教材の活用を行うよう各校に指示するなど、取り組みを進めてまいりました。

議員ご指摘のように、チャレンジテストにつきましては、毎年、全学年で実施されるため、一人ひとりの子どもについて経年比較ができるという利点がございます。本市教育委員会では、チャレンジテストの結果を受けて本市全体の各学年の学力状況を把握したり、各中学校の取り組みを検証したりするために活用しておりますが、各中学校においても、生徒一人ひとりのより丁寧な学力の把握や指導の改善を図るよう指示しております。

こうした取り組みにより、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を昨年度のものと比較すると、中学校においては国語A・B、数学A・Bのすべての科目の結果が向上しております。

続いて、結果の公表についてお答えいたします。

子どもたちの学力向上を図るためには、学習指導のみならず、自己肯定感や自尊感情を育成し、自ら主体的に学ぼうとする意欲を高める取り組みを学校教育全体で進める必要性がございます。このため、本市教育委員会が公表する資料につきましては、市全体の総合的な改善方策を記載しております。一方、各学校では、それぞれの成果や課題、改善に向けた具体的な取り組みを、本市教育委員会が作成した様式に基づき、学校便り等で保護者に示しております。

全国学力・学習状況調査結果の、本市全体の結果に関する公表のあり方につきましては、今後、他市町村の事例も参考に、より具体的な分かりやすいものとなるよう研究・検討するとともに、チャレンジテストの結果の公表についても検討してまいります。

最後に、「箕面子どもステップアップ調査」を参考にした制度の導入についてお答えいたします。

箕面市では、「箕面子どもステップアップ調査」に係る各種の調査を実施し、これらのデータを関係させながら分析するために、全教職員に配備している校務用パソコンを活用し、調査・分析のためのシステムや、校務支援システムを導入されておりますが、これらの導入やランニングコストとして、多額の費用が必要になると聞き及んでおり、本市にあっては、財源の確保という課題がございます。

本市教育委員会といたしましては、子どもたちの学力向上と健全な成長を図り、自立して生活できる力や、社会を主体的に担う力を育成するために、きめ細かな課題の把握や分析は重要であると認識しておりますことから、今後も、全国学力・学習状況調査や経年比較ができるチャレンジテストを有効に活用するとともに、箕面市など他市町村の事例も参考にしながら、効果的な手法について研究してまいります。